

「ねぶこ」継続へCF

青森

青森ねぶた制作におけ

る細部の技法や表現に焦点を当てたアート作品「NEBUCCO(ねぶこ)」を展示する「AOMORI NEBUCCO 2026」(市や市教育委員会、青森商工会議所、青森観光コンベンション協会など)でつくる実行委員会主催)が7月31日～8月11日、青森市の協同組合タツケン美術館展示館などで開かれる。同実行委は毎年の継続開催を目指し、クラウドファンディング(CF)で支援を呼びかけている。

(野上圭佑)

ねぶこは、ねぶたの「ねぶ」に加え、共同・協力を意味する接頭語「CO」や、発想・概念という意味の「CONCEPT」、津軽弁で愛着のあるものを呼ぶ「○○○○」から「CO」を取った。

イベントは2024年夏、ねぶた師の新たな作

ねぶた技法でアート作品展示 7/31～8/11

公立大生も参加



西市長(前列左から3人目)に今年のねぶこ開催を報告した高坂実行委員長(同4人目)ら

「若い感性注入」

ん、副実行委員長をねぶた師の竹浪比呂央さん、事務局長を同大学教授の佐々木てるさんが務める。イベントには同大学の学生も参加し、新たな息吹を吹き込む。

実行委は会場費や人件費など展示会開催費用の一部に充てようと、CFサイト「READYFOR(レディーフォー)」で31日まで支援を募っている。目標金額は500万円。返礼品として、学生がねぶたの和紙で制作するマグネットや、オリジナルデザインのトートバッグ、ねぶた師の描き下ろし色紙、イベントで展示するねぶこ作品本体などを設定した。

4月28日、関係者が青森市役所本庁舎を訪れ、西秀記市長に開催を報告した。高坂実行委員長は「学生の若い感性をねぶこに注入して、このイベントを将来につながるものにしていきたい」と語った。同大学4年の大坂優生さんは「ねぶた師の皆さんの作品を通じ、ねぶ

品発表の場づくりや収入安定化の一環として初めて開かれ、今回2回目。ねぶた師14人が「花」を

テーマに指定のサイズ内で自由に作品を制作する。実行委員長を青森公立大学理事長の高坂幹さ

述べた。